

# 週刊 かわら版

生徒と保護者のための



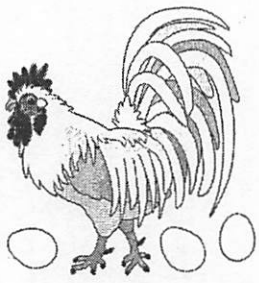
## あけまして おめでとうございませう

鳥兎兎(うとそうそう)というが、時の過ぎるのは早い。今日(13日)もまた、かくありなんといふ感じで普段と変わらぬ時間が流れ始めた。

年の初めにこの先、一年どのようなことが待っているのか、予測することは難しい。それにしても、どんな年になるのだろうか。

アメリカ合衆国だけでなく、いくつかの国の指導者が代わる。おそらく世界的に見ても、大きな変化のある年と予想される。そして、それは多かれ少なかれ、私たちの暮らしにも大きな変化を強いてくるだろう。

酉(とり)年は、新しいものを取り込む年とも言われる。何かを取り入れ、新しい



## 先見コーナー

- 01/14(土)○第16回自専攻科○C ○センター試験
- 01/15(日) ○センター試験
- 01/16(月)○職員会議・入学願書締切日
- 1/23(月)~2/1(水) 国公立入試出願期間
- 01/17(火)○推薦入試
- 01/18(水)○職員会議・午前授業
- 01/20(金)○3年学年末考査 ○情報技術検定  
○グラフィックデザイン検定(全工)
- 01/21(土)○1・2年進研模試記述(2年は22日まで)
- 01/22(日)○第3回英検1次 ○全商簿記
- 01/23(月)○3年学年末考査 ○午前授業
- 01/24(火)○3年学年末考査 ○第6回自専攻科入学学力検査
- 01/25(水)○3年学年末考査
- 01/26(木)○入試会場設営(午前授業)
- 01/27(金)○入学学力検査(生徒休み)
- 01/28(土)○入試処理(生徒休み)
- 01/29(日)○全商情報処理 ○入試処理(生徒休み)
- 01/30(月)○生徒振替休日(8/29) ○入試処理
- 01/31(火)○生徒振替休日(8/30) ○入試処理

次(13日)のかわら版23号は1月20日(金)に発行予定です。

つてみた。「飛ぶ鳥を落とす勢い」があつても「足下から鳥が立つ」ともいう。人生、何があるかわからない。かと言つて、「鳩を憎み豆を作らぬ」という例えもあるが、つまらない事にこだわるあまり肝要な事を見失い、「鴨が葱(ねぎ)を背負つて来る」のを待っている、「鶯(とび)が油揚げをさらう」ことにもなりかねない。

### 明日はセンター試験

いよいよ明日はセンター試験。本校からも59名の生徒がチャレンジする。試験会場は鹿児島国際大学。体育祭で通

い慣れた会場でもある。しかし、油断は禁物。時間に余裕をもつて会場に向かつてほしい。また、ある新聞の記事によると、意外にも受験票を忘れる受験生が多いという。「我も人なり、彼も人なり」昔あつた学園ドラマのある場面を思い出す。

「試験会場では、周りの人が、自分よりも優秀に見えるかもしれない。でも、アイツだつて自分と同じ人間。同じことを考えているんだぞ」とこのことばで励ました。最後まで粘り強く、冷静に取り組み、良い結果が届くように祈念します。

### 修学旅行関連

- 二年生の修学旅行関連の主な日程を掲載します。
- 1月23日(月) 1限目
- 事前指導(体育館)
- 2月3日(金) 2限目
- 荷物検査
- 2月6日(月)
- 結団式3限目まで
- 終了後下校
- 2月7日(火)

10日(金)修学旅行詳細については別途プリントやお知らせが準備されています。しっかりと確認をお願いします。

### 編集後記

「赤十字百文字作文コンクール」に全校生徒の九割近くの生徒の作品が提出された。冬休み中に、全ての作品に目を通した。何よりもうれしいことにふざけた作品がひとつもないことだ。今年の作文の特徴は「気づき・考え・実行する」のことが随所に見られたことだ。青少年赤十字推進校としての取り組みが少し実ったのだろうか。



### 清流

一月は睦月(むつき)ともいう。一説によると、正月は家族や親族が集まり、仲睦まじく(むつまじく)、親睦を深める月であることを由来にしていると聞く。こたつに入つて餅やみかんを食べて、などという情景はだいぶなくなつてきたが、やはり家族を一番感じることのできる季節ではなからうか▼さて、餅(もち)の材料になる餅米は、こはんとして食べる米とは違ふ▼こんな話がある。餅米は最初、田んぼに植えられて、太陽の恵みを受け、すくすくと育ち、「太陽さんありがとう」とお礼を言いながら上を向いてぐんぐん育つ。やがて、立派に育ち、たわわに米ができて今度、立派に育ててくれてありがとうと穂をさげて、大地に礼をする。このように礼儀正しく、感謝とともに育つた餅米にも収穫という地獄がやってくる。まず、刈り取られ、皮をむかれ、水で洗われ、研(と)がれ、炊かれるという五つの地獄を味わう。普通の米ならここまでだが、餅米は、餅になるために、臼(うす)の上で杵(きね)につかれ、手で、もまれる。普通の米よりも多くの地獄を耐え抜いた餅米がやがて鏡餅やお供物になって人間が手を合わせる対象になる▼十一日は鏡開きだった。